

平成 24 年度

グループ対抗



里山デジカメ選手権 入選作品集

も り
身近な森林の
再発見!!



主催 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
協賛 (株)ニコン
後援 朝日新聞大阪本社/  大阪放送局/ (公財) 森林文化協会
毎日新聞大阪本社/ 産経新聞大阪本社/ 里地ネットワーク

局 長 挨 拶

近畿中国森林管理局長

前川 泰一郎



森林管理局長の前川です。よろしくお願い致します。

森林管理局とはどういう仕事をしているかおわかりでしょうか。

わたくしどもは近畿中国地方の国有林を管理する仕事をしています。近畿中国地方には、里山にも国有林が数多くありまして、そういう意味でこのフォトコンテストを開かせていただいています。

はじめに、本日最終審査会ということで、審査の労をとっていただいた、今森先生、只木先生、青山先生には感謝を申し上げたいと思います。また、お集まりの皆様には足下の悪い中でご出席いただきましてどうもありがとうございます。

里山とはどの辺のことかご存知でしょうか。里山ですから、集落に近いところの山ということですが、皆様が普段目にする山は、ほぼ里山と言っていいと思います。里山の奥が奥山となるわけですが、歴史的にいいますと、境目がはっきりしていたと思います。里山ができたのは、いろんな説がありますが、近畿地方ですと、大体西暦600年頃の近畿に人が住み始めた頃にはもう出来てきたといわれています。

その後、里山は何に使われていたかということ、今は使われていませんが、まず薪の供給地として使われていました。薪炭林です。それから落ち葉や堆肥が肥料になりました。それを水田につぎ込んで肥料の代わりにしたということで、里山とは肥料の供給、薪炭の供給で非常に酷使されたということです。江戸時代にあまりにも酷使されたものですから、禿げ山になってしまい、雨が降ると洪水で土砂が流れ大変なことになりました。それで江戸時代には、木を伐ってはならないなどの施策がとられ、多少回復基調となったのですが、明治の動乱期、昭和の戦中戦後には相当程度、伐採されて禿げ山になったところも数多くありました。

皆様が記憶にありますのは、山は木が植わっている状況で記憶があると思いますが、今のような状況になったのは、戦後、緑化運動が盛んに行われ、植林が進められた結果です。

一方里山では、燃料革命ということで、家庭でガスや電気を使って、薪を使わなくなった結果、利用されなくなりました。

皆様は、「今里山はどうなっていると思われますか。」

皆様里山ということで、今回作品にして頂きましたが、苦労されたのではないかと思います。昔は生活の中でどんどん使われていたのが、今や振り返られることもなく、特別な意図をもって接しないと、里山に対して意識が払われなくなってしまったということです。

ただ、こういう状況の中でも希望があります。森林が二酸化炭素を吸収していること、あるいは生物多様性の保全、里山は人間の手が入っていますが、さまざまな昆虫や動植物の生育の場を提供しているということから注目されています。

そういう意味で、酷使され、戦後無視されてきた里山にもう一度光をあてるべく、国有林といたしましても、学校あるいは企業、NPOの皆様方に森林を活動フィールドとして様々な形で使っていただいています。

今回、箕面森林環境保全ふれあいセンターが中心になり、里山のフォトコンテストを開きましたのも、その一環でございます。レンズを通して見ていただいた里山の姿、まだまだこれからも変わっていくと思いますが、このフォトコンテストをきっかけといたしまして、皆様の周囲で里山に対する関心が広まり、それが日本の国の森林の振興につながっていけばと思います。

本日はしっかりと審査をしていきたいと思しますので、よろしくお願い致します。

(※平成24年10月28日開催の最終審査会会場にて挨拶)

審査講評

◎ 今森 光彦 氏（写真家）



私は初回から楽しく審査させていただいていますが、最初は国有林、森林を国民に開かれたものにしたいということで、コンテストが始まりました。

森だけでなく森をつくっている周辺の環境も入れたらということで、田んぼなど全体を里山としてコンテストの対象になっていったと思います。

毎年言っていますが、3点作品を自分で厳選して、さらにコメントを付け加えて発表しないといけないという、こんな難しい審査はなかなか日本のコンテストでもないんですね。

大体写真を1点応募するとか、組写真で10点以上というものは多いが3点は難しい。よほど自分の撮りたいものがはっきりしないと、私たちに伝わってこないです。起承転結がなく、3枚で全部を伝えないといけない訳ですから。

特に、森林活動部門が難しいですね。活動内容を伝えないといけないのですから難しい。そのときのコメントの力は大きいのですね。そういうものを上手く使って写真の悪いところを補うということを考えていただけたらいいと思います。

いちばんの理想は、写真もいいし活動内容もいいというのが理想ですが、大体傾向として2つに分かれます。活動は素晴らしいですが、写真は下手です。反対に写真が良ければ自分がやっている活動や自然の思いの表現が下手です。しかし、写真の説明は上手いですね。ところが背後にあるものの説明が少し足りない。そのバランスが難しいのです。その両方あるのが理想です。今日受賞された方は全体のバランスが取れていました。このフォトコンテストは個性的な方々が審査されるわけですから、写真が良くても落ちたりしますし、活動内容が良くても落ちます。このコンテストの面白いところは、そこだという気がします。だから続けていただきたいコンテストなのです。

全体の傾向としては、見せ方がパターン化してきたのが心配です。もっとオリジナリティや視野を広げて、審査員の方々がおっしゃったことを参考にして頂いて、もっと自分のやっていることを理解し掘り下げて、文章コメントと写真の表現力で頑張っていたきたいと思います。

今日はありがとうございました。

◎ 只木 良也 氏（農学博士）



私が拝見したのは、一次審査から選抜された30作品です。これについては、今森先生がプロの目を見たものなので、写真としては完成されたものだとは私は感じています。

そうすると私が審査員として選ばれたのは何の役割か？これは3枚の組写真がどんな意味を持っているか、何をアピールしたいのか、3枚の写真それぞれが全体のうちの何を受け持っているのか、それぞれが何を表現したいのか、どんなストーリーが生まれるのかというところを、私としては審査の対象と考えたわけです。

ところで、このコンテストのテーマは里山です。里山にはいろんな解釈があります。この解釈をそれぞれの人がどう撮っているのか、それが組写真のポイントだったと思います。

里山というのは、わが国では森のこと林のことです。それが証拠に「おじいさんは山へ柴刈りに」行くんですね。禿げ山に行ったとは誰も思わない。日本人なら山に木が生えているのが常識で、里山といえば森のことなんです。これを中心に考えて欲しい。

ということは里に近い森林というものがどんな意味をもっているかということですね。それが農山村の生活にどのような影響を与えてきたか、そこに住んでいる動物たち生き物たちにどんな影響を与えてきたか、どんなふうにサポートしてきたかというところを考えてほしいのです。いかに写真自体がすばらしいものであろうと、里山のポイントを落としたものは、なんだこれと言ったつもりです。単なる農村風景を撮って「里山写真」では悲しい。単なる葉っぱの上の虫がいる、それだけでは意味がない。森林の中でどういう意味をもっているか、そんなところをポイントに見たつもりです。

里山とは森林であるという考え方でやっていただければと思います。いかに写真が美しかろうと、いかに優れたアングルで写してあろうと、私は里山写真とは認めないと厳しいことを申し上げます。

本日受賞された作品は、ほとんど私の意向に沿ったものばかりでした。

また来年会いましょう。



審査の様子

◎ 青山 佳世 氏（フリーアナウンサー）



入賞されたみなさんおめでとうございます。

こうして、大きく喜んで下さる姿をみると私たちも良かったと喜んでいるところです。また、入賞されなかった方も今回は残念でしたが、みなさん大変健闘されましたので、落ち込むことはないと思います。毎年参加をして下さっている方もいらっしゃるし、初参加の方もいらっしゃると思います。常連さんは、毎回私たちがいろんなコメントをいたしますので、傾向と対策がよく分かっていて、その辺は有利だったのかなと思います。

このデジカメ選手権は、デジカメの作品としての撮影技術は当然のこと、3枚のストーリー性、ここの現場に来てどのようにプレゼンテーションするかという、プレゼンテーション力も大きく問われるわけで、3つの高度なことを要求しています。

今回はいろんな事情でここにお越しいただけなかった方も何人かいらっしゃいますが、三番目のプレゼンテーションも大きなポイントですから、忙しい中ここまで足を運んでくださった方々には、相当な加点がついていますので、来た甲斐があったと思います。

私からは毎年共通の視点からのコメントになりますが、一般部門の皆さん方は、ほんとうにストーリー性が良くなったし、プレゼンテーションもとても分かり易くなったという印象です。ただ、ストーリーにどんな写真を組み合わせていくと、そのプレゼンテーションがより効果的になるかと考えたときに、写真の組み合わせをもう少し変えようと（違う写真を組み合わせたほうが）、みなさん達の言いたいことがもっと良く伝わるという作品がいくつかありました。

森林・林業部門の方達は森林作業を撮るところが多いのですが、森林作業の様子はどうしても同じ姿に見えがちなんです。3枚が似たような雰囲気になることが多いので、もう少し、遠くから撮ったところやアップにしたり、人間がいないところなどをうまく組み合わせて3枚セットにすると、より表現力が高まるのかなと思いました。

学校部門ですが、写真部の方が多いということもありますが、写真力が抜群ですね。でも、写真は抜群だけれども、3枚ともアップの作品もしくは遠景が多いとか、3枚のバリエーションや色合いをもう一工夫したほうがいいと思う作品がかなりありました。

今回、特別賞を設けて京都大原学院のみなさん達にお贈りしましたが、写真を通して里山とか貴重な自然とか、そういうことに目を向けてくれることが里山デジカメ選手権の一番の目的なんですね。そういう意味で、写真から入るかもしれないが、自分たちの貴重な自然や宝物に目を向けて、写真を通して多くの人に伝えるという目的が少しずつ皆さんの中に培われているんだなと強く感じました。これから卒業して大人になっていかれても、そういう目で写真を撮り続けていただきたいし、貴重な里山を守る大きな力になっていただきたいと思います。

みなさんご参加ありがとうございました。

最終審査会及び表彰式

- 開催日：平成24年10月28日（日）
- 最終審査会及び表彰式会場：京都市 梅小路公園緑の館（1F イベント室）



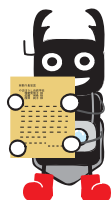
審査会場にて最終審査対象の30作品を展示



出品者によるスピーチ



表彰式



平成 24 年度
「グループ対抗 里山デジカメ選手権」受賞作品一覧表

賞	タイトル名	グループ名	部門	メンバー 氏名	所在地
最優秀賞	森とあそぶ	トヨタの森A	森林・ 林業 活動	大原 満枝 原田 秋男 原田 敬子	愛知県 豊田市
里山賞	明るい森に	京都府立 北桑田高等学校C班	学校	岩崎 夢乃 中井 悠 藤原 菜世	京都府 京都市
優秀賞	偶然の出会い	箕面大好き親子	一般	川部 由美子 川部 一雄	大阪府 箕面市
	秋の里山	特許調査部	一般	鈴木 聡 今永 直子	東京都 大田区
	ミッション! SATOYAMA 『里山ってわかるかなあ』	写ベスト1	一般	須賀 修平 中川 卓	大阪府 高槻市
	森は眠らない	トヨタの森B	森林・ 林業 活動	川田 奈穂子 杉山 時雄 伊吹 あゆみ	愛知県 豊田市
	ちびっ子探検隊の 大発見	NPO法人 やまぼうし自然学校	森林・ 林業 活動	佐藤 明希 西澤 純子 瑞慶覧 明子	長野県 上田市
	里山で生きている	岡山県立 高梁城南高等学校 チームA	学校	藤澤 遥 福田 絵理	岡山県 高梁市
	木漏れ日	広島県立 庄原格致高等学校 Fチーム	学校	平田 滉 須応 僚哉 西村 陸斗	広島県 庄原市
審査員特別賞	大原にふりそそぐ光	京都大原学院 大原っ子！	学校	伊東 里紗 後藤 未沙	京都府 京都市

①



②



③



【森林・林業活動部門】

「森とあそぶ」

トヨタの森 A (愛知県豊田市)

大原 満枝

原田 秋男

原田 敬子

〔メッセージ〕

11月中旬、アベマキの葉が黄色く色づきます。アベマキはトヨタの森を代表する樹種。トゲトゲの大きなパンツ（殻斗）のドングリのなる木です。森に遊びに来る子供たちもリスやネズミなどの動物たちもドングリが落ちるのを楽しみに待っています。大きなノッポのアベマキの木の根元に寝転んで、落ち葉でふかふかの地面を背中を感じながら目を閉じると鳥たちの声、風の音…森のおしゃべりが聴こえてきます。

テレビの番組で見たチーズころがしをまねて、アベマキの幹の輪切りをチーズに見立て、「森のゴロゴロチーズころがし」をしました。丘の上から転がしてゴロゴロゴロゴロどこまで転がっていくのかを競います。

秋の森での親子参加のイベントプログラムは大人も子どもも大喜び！森に歓声が響きました。

森の斜面でソリ遊びをしました。大きな木のソリに乗った子どもたちの嬉しそうな笑顔。スピードがでてスリル満点だけれど、楽しくて何度でも挑戦したくなってしまいます。一番うしろに乗っている白い髭のおじさんが、このソリの製作者。ソリは、滑りながらカートをチョンとつけると速さや向きが変わって面白い！

そんな体中で感じる楽しさを子どもたちに体験させてあげたいと言いつつ…いちばん楽しんでいるのは大人のような気がします。

ライフスタイルが変わって、自然とのかかわり方がずいぶん変わってきましたが、まずは、森に来て楽しく過ごすこと。楽しい遊びの中からさまざまな発見があります。

・撮影場所 愛知県豊田市 トヨタの森

〔講評〕

毎年応募いただいて、いつもテーマがちゃんと決められて、構成がしっかりしてるという印象があります。今回この作品が最優秀賞だったわけですが、何が良かったかというと、人の活動や表情の、なんといいですか、「空気感」みたいなものが伝わってきてることですね。人物を撮るとき難しいのは、どうしても後ろ姿になってしまうことなのですが、この作品では、本当に表情を捉えるべく、意識して良いシャッターチャンス、良いアングルで捉えられていますね。樹冠を見上げた写真も良いですけど、人の表情がとても良かったのが最優秀賞の受賞につながったのだと思います。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



カメラ：PENTAX TZ7

【学校部門】

「明るい森に」

京都府立北桑田高等学校 C 班（京都府京都市）

岩崎 夢乃

中井 悠

藤原 菜世

〔メッセージ〕

北桑田高校の森林リサーチ科が実習しているところです。

手入れの行き届かない暗い森では木の根元に草たちが育たず、土が豊かになりません。草がないと雨が降ったとき土が流されてしまいます。私たちは、木が入り込みすぎて暗くなってしまった森を、明るく健康な森にするために間伐していきます。

スギの香りで満たされた森の中の作業。間伐した木の枝を切り落として、木材の長さを4メートルにそろえています。これを林業用の機械が通れる道まで、みんなで運びます。

倒したばかりの木は思ったよりも重いのです。足元にも気を付けながら、ちょっとよける時もありますが、木を置くまで責任をもって運びます。

帰り際にいったん振り返って、明るくなった森を見わたすときがその日の授業の仕上げです。そのひとつひとつが地道な作業ですが、その日の作業が間違いなく少しでも森を明るくした、そう実感できる瞬間を写真に収めてみました。

・撮影場所 京都府京都市右京区京北

〔講評〕

杉林が管理不十分な状況が多くて問題となっている。そんな現状だと思います。間伐をしている作業の風景なんですが、3枚の組写真、それぞれ重複しないよう、うまくバランスを取ってまとめられていると思います。

審査員の中で特に印象深く好評だったのが、杉林の明るい感じ、間伐したあとの明るい感じがよく出ているということですね。間伐後はまさしくこんな感じになる、風通しの良い明るさを感じさせる写真です。こう言う杉林が、どんどん増えてくるといいと思います。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



【一般部門】

「偶然の出会い」

箕面大好き親子（大阪府箕面市）

川部 由美子

川部 一雄

〔メッセージ〕

写真① いつものように箕面の瀧道を歩いているとアオサギが獲物をゲット！オオサンショウウオ？！魚？！何か分からず、写真から動画に変えて撮影しました。偶然の瞬間でした。

以前はコサギが同じように獲物を捕まえては、川へ落としてしまい、また捕まえ…の繰り返しをしていました。同じ道でも歩く度にいろんな場面に出会えるのが自然の魅力です。

写真② 早朝に思わぬプレゼントをもらった感じでした。歩いていると椿の花が1つ、目に入り、道の先を見てみるとそれがずっと続いて置いてありました。これをされた方も楽しかったと思いますがこちらまで嬉しい気持ちになりました。

（帰りはなぜか1つも残っておらず少し残念…）

写真③ 年始初めての休日。雨だったのでどうしようかと思いましたが、少しだけ…とさっと出かけました。歩いて行くうちに雨が雪になり更に歩くと奥の山上がみるみるうちに真っ白になっていきました。目に入る景色の変化の速さにとても驚きました。

自然の中に入ると蟻が自分の体の何倍も大きいものを運んでいたり、野鳥が子育てをしていたり、さっき閉じていた花びらが咲いていたり、瀧に虹がかかっていたり…。小さいものから大きいものまで全てが素晴らしく、感動させられます。いつも箕面の山のために活動してくださっている方々に感謝しながら、これからも楽しく歩きたいと思います。

・撮影場所 大阪府箕面市

〔講評〕

おそらく、応募された方の、お住まいの近くで撮影されたのだと思います。写真を見ると、何度も通われている様子がよくわかります。

椿の花がいっぱい落ちている写真や、アオサギが獲物を捕まえた瞬間であるとか、紅葉の上に雪が積もっている写真など、さりげなく撮っているようですけれども、シャッターチャンスがすごく良いです。それがこの組写真の最大の魅力ですね。こういう場所には、これからも通い続けて、いい作品を撮っていただきたいと思います。

〈今森 光彦氏〉

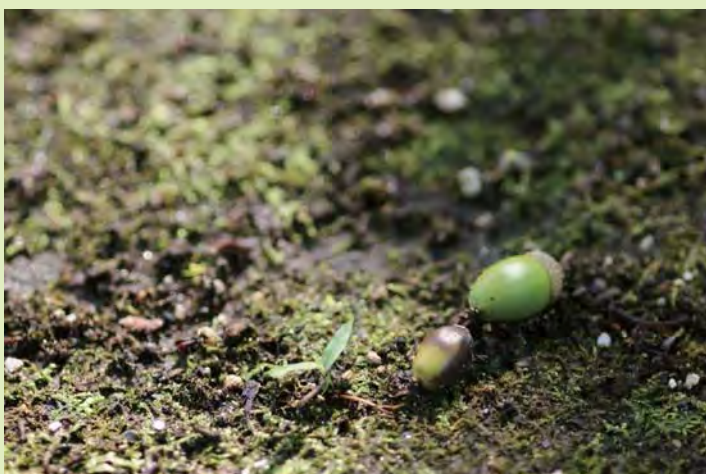
①



②



③



【一般部門】

「秋の里山」

特許調査部（東京都大田区）

鈴木 聡

今永 直子

〔メッセージ〕

TVのニュースと街中のショーウィンドウから季節を感じることに慣れている私たちにとって、里山は季節と生活が一体となり、山に寄り添って時間が流れる素敵な場所でした。

1枚目（愛知県）の写真は、小原の四季桜と紅葉と古民家がひとつになった風景です。

山桜・紅葉・どんぐりなど色々な木々があり、小さな集落ですが、昔からの生活を大事に守り、手入れを続ける人たちがいることで里山が守られていました。

2枚目（東京都）大きな木の下には小さな木やシダが生えています。そうした下生えが森を支え、紅葉との美しいコントラストを創り出していることが感じられました。

3枚目（大阪府）はそんな里山の原点がイメージできる写真です。

木から落ちたばかりのどんぐりが、ふんわりとした土とコケに受け止められ、その隣には、木漏れ日がスポットライトのように当たった小さな芽がありました。

このどんぐりは、数年後に大きな木に育つかも知れませんが、このままリスに食べられてしまうかもしれません。

いずれにしても、木が生んだ小さな種や木の実を森は受け止め、そして育み・・・

1枚目の風景、2枚目の風景のように、街とは遠く離れている山が守られることで、植物や動物だけでなく、水源としても守られ、街で暮らす私たちともつながっているのだと思います。

・撮影場所 ①愛知県 ②東京都 ③大阪府

〔講評〕

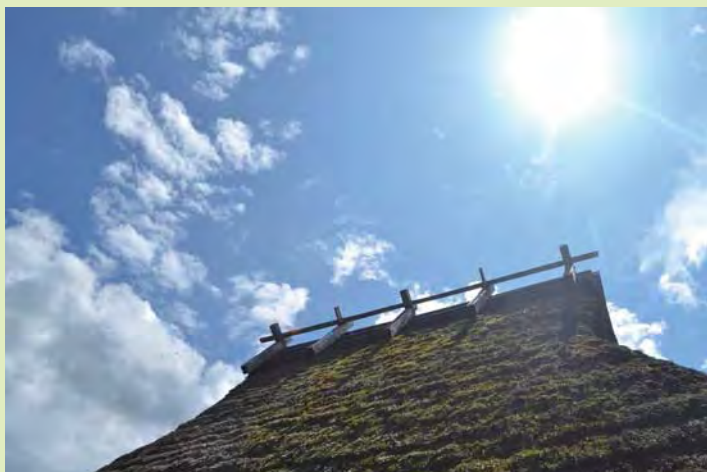
秋の里山の写真ですね、紅葉しているモミジの背景に、古民家が見えている写真や、もみじをアップ気味に写して、ディテールを捉えていたり、地面に落ちているどんぐりを写したりと、いろんなところに視点を投げかけているのがよくわかります。欲をいえば、被写体以外の風景の空間部分、砂利道の映り込みなどをうまく処理すると良かったかなと。でも、秋の里山の雰囲気伝わってくる、なかなか良い作品だと思います。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



【一般部門】

「ミッション！SATOYAMA
『里山ってわかるかなあ』
写ベスト1（大阪府高槻市）
須賀 修平
中川 卓

〔メッセージ〕

この夏のとある昼下がりです。当社社長の何気ない一言がこのような素敵な出来事に繋がるとは…

結成されたチームは“2つ”ミッション里山が始まったのです。普段パソコン画面にとらめっこしている私達にとって、得難い経験となりました。

①撮影に出かけたのは京都府南丹市美山町の『かやぶきの里 北村』です。現地に入りますとあちらこちらにカメラを構えた御仁。集落の奥にはスギの木の森。よく見ると赤トンボが飛んでいます。その中で悠然と建つ。いや『立つ』“かやぶき屋根”の民家が連なって見える写真を選びました。

②屋根に近づいてみました。“太陽と空と雲とそしてかやぶき屋根”昔の方もきっとこの角度からの同じ空を見ていたのではないのでしょうか。そんな想いの中、撮影しました。

③かやぶきの里 北村の北集落にある知井八幡神社の『御神木』大きいなあー。見上げると思わず仰け反ってしまいます（笑）

そうか！そういうことなんですね社長！！心地いい疲れと共にミッションは大成功に終わりました。

さあ今度はドコ行こうかな。

・ 撮影場所 京都府南丹市美山町
かやぶきの里北村

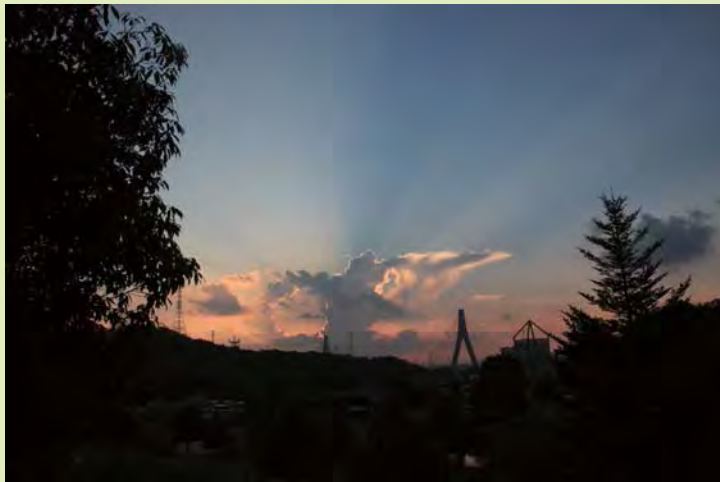
〔講評〕

京都の美山にある茅葺きの民家の写真ですね。有名な場所でもあり、風景写真としては正統なものだと思いますが、2枚目の、茅葺きの屋根に太陽と空を大きく入れ込んだ写真であるとか、杉の巨木を人が見上げていて、巨大感がよくわかるものとか、アイディアが面白い写真ですね。

一見平凡になりがちな被写体ですが、それらをうまく写真のテクニックで面白く見せている作品だと思います。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



【森林・林業活動部門】

「森は眠らない」

トヨタの森 B (愛知県豊田市)

川田 奈穂子

杉山 時雄

伊吹 あゆみ

〔メッセージ〕

人は夜眠る生きものです。鳥やトンボをはじめ、昼間に活動していた生きものたちの多くも夜は眠ってしまいますが、それと入れ替わるように、夜になると動き出す生きものたちもいます。

写真1：“でいだらぼっち”のような形の雲が真っ赤な夕日を隠した瞬間、雲の後ろから光が射してきました。この日は雲と夕日が見せてくれた特別ショーで、夜の世界が幕を開けました。

写真2：夏の夜の森では、純白のカラスウリの花がひらひらとしたきれいな花びらを広げています。この花は日が落ちるころに咲き出し、朝にはもう閉じてしまう一日花。この夜は運の良いことに3つの花が並んで待っていてくれました。このように夜咲く花があることで、夜に活動するスズメガのような昆虫もおなかを満たすことができます。

写真3：トヨタの森では、生きものがカメラの前を通ると自動的に撮影されるセンサーカメラを設置しています。この装置のおかげで、目にする機会が少ない生きものたちの存在を知ることができます。ある夜、まだ若いキツネが身近で繁殖していることをこの写真が教えてくれました。

森は暗くなっても眠りません。夕方から夜にかけては昼間とは全く別の世界があり、そこでも命のドラマが繰り広げられています。昼間の森だけが森ではありません。知らない世界をのぞくことで、今までとはまた違った森が見えてきます。

・ 撮影場所 愛知県豊田市 トヨタの森

〔講評〕

作品のテーマがすごく絞られていて、また、「夜は眠らない」という作品タイトルのつけ方もなかなか良いです。夜の写真は撮影が難しくて億劫になるんですが、あえてそこを狙って被写体を捉えています。夜に咲くカラスノマクラの開花、ホンドギツネが歩いているシーンなど、なかなか珍しい場面を写しています。その中に1点、暮れゆく夕焼けの写真が入っているのも良いと思います。全体的に3点がよくまとまった作品だと思います。

〈今森 光彦氏〉

カメラ：①Canon EOS KissX5 ②Canon EOS 60D ③Canon EOS 20D

①



②



③



カメラ：Nikon COOLPIX S640

【森林・林業活動部門】

「ちびっ子探検隊の大発見」

NPO 法人 やまぼうし自然学校（長野県上田市）

佐藤 明希

西澤 純子

瑞慶覧 明子

〔メッセージ〕

「さっきあっちでね、すごいもの見つけたの！！」菅平高原のとある森の中。親と幼児のイベントで森の中を散歩していた時のこと、女の子が言いました。

「なになに？」「なにをみつけたの??」
「どこで??」「行きたい!」と、近くの沢で遊んでいた他の子ども達も興味津々。それじゃあ、みんなで行ってみようかと、ちびっ子探検隊長を先頭にずんずん進んでいきました。木が横に倒れていてもひょいっとまたぎ、ぬかるみも難なくクリア。沢の横を器用に歩く、たくましい探検隊。

目的の場所へたどり着くと、「これだよ!」と女の子は手を伸ばして教えてくれました。そこには、長くてぬるぬるしたものがたくさん。「なんだこれ〜?」「触ってみたい、でもちょっと怖い…」と遠くで見守る子、恐る恐る触る子、迷わずつかむ子もいました。それは、柔らかい何かの卵みたい。みんなで辺りを見回し、どこかにヒントがないかと探しました。「あ!あそこに大きなカエルがいる」「死んでいるかも…」どうやらガマガエルが最後の力を振り絞って産んだ卵のようでした。

子ども達は「すごいね〜」「頑張ったんだね〜」「もう怖くないや」などと口々に言っていました。ワクワクドキドキの探検、そのあとで見つけた小さな命。小さなちびっ子探検隊が森の中の『命の循環』に少し寄り添えた、素敵な時間でした。

・撮影場所 長野県上田市菅平高原

〔講評〕

活動の様子を捉えた3枚の組写真ですね。実際に撮影された方が、審査会に来られてスピーチをされましたが、そのスピーチもなかなか良かったです。物語性のある、絵本を読んでいるような感じでした。写真もまさにその通りで、ストーリーになっている、探検に行き、何かを発見して、みんなが驚いているシーンへと進む。たった3枚の写真で、短いお話になっている。このような写真はなかなか撮れません。「こういう写真を撮ろう」と、ちゃんと狙いを定めて撮影している、そういう頑張りが見える、すごく良い作品だと思います。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



【学校部門】

「里山で生きている」

岡山県立高梁城南高等学校チーム A (岡山県高梁市)

藤澤 遥

福田 絵理

〔メッセージ〕

私たちは今回、里山が育んでいるものをテーマに写真を撮りました。

普段は山に入っても「木や草がたくさん生えているな。」とぼんやりと眺めるだけでしたが、写真を撮るため改めてじっくりと観察してみました。

まず、地面に目を向けるとそこにはたくさんのキノコが生えていました。さまざまな色や見たことのない不思議な形をしたものなど、本当にたくさんの種類がありました。落ち葉や朽ち木からできた腐葉土などが混ざった豊かな土壌だったから、このように色々なキノコが育っているのです。キノコだけでなく山の中には数え切れないほどの植物たちが生息しています。

そして同じように昆虫や動物も里山の中で生えています。美しい色のトンボやバッタなどの生きものをみることができました。

里山の中を歩いていると、倒れて腐った木の上に苔が生え、そこから新しい木の芽が出ているのを見て、命のつながりを感じました。里山はたくさんの命を育んでいます。人間もその自然に生かされています。むやみにそれらを壊すことなく守り続けていくことが大切だと思います。

・撮影場所 岡山県真庭市

〔講評〕

この作品は、人物が出てこない、自然の営みのクローズアップ写真ですね。3枚ともいい写真です。マクロレンズを使ったり、広角接写を試みて、周りの環境を取り込みながらのキノコの写真、イトトンボの交尾のシーンなど、バリエーションが豊かです。ピンとの合わせ方もうまく、コケの胞子の上に葉っぱが乗っているところとか、すごくシャープに撮られています。基本的な技術がしっかりしてるのが伺えます。全体的には「技術賞」といったところでしょうか。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



優秀賞

【学校部門】

「木漏れ日」

広島県立庄原格致高等学校 F チーム (広島県庄原市)

平田 滉

須応 僚哉

西村 陸斗

〔メッセージ〕

庄原市口和町に日野滝があります。ほとんど誰からも知られていないこの滝は、道路から十数分山道に入ると森の中にひっそりとたたずんでいます。

この日は、前日の雨で水量も多く、勢いよく水しぶきがあがっていました。

木々の間を太陽が注いできて、滝の一部やコケや葉っぱやシダを照らしていました。日差しを受けて、滝も、コケも、シダも生き生きとして見えました。

太陽の光があって、水があって、植物があります。そうした環境の中ではじめて、人間も心豊かに生きていけるのではないかと思います。

・撮影場所 広島県庄原市口和町

カメラ：①Canon D30 ②Nikon D200 ③CanonEOS KissX5

〔講評〕

今回の応募作品でも、いろんな環境を取り上げられていましたが、おそらく、この作品が一番「森を感じさせる」ものだったと思います。溪流の近く苔むした風景から、水の流れが聞こえてくるような写真や、コケの上の落ち葉やシダなど、いろいろなものに目を向けておられます。

特にシダの写真は、アングルや光の加減をうまく使って、透明感のある写真になっています。それぞれにバランスよく、全体的な技術も良い作品です。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



カメラ：Canon Powershot A460

【学校部門】

「大原にふりそそぐ光」

京都大原学院 大原っ子！（京都府京都市）

伊東 里紗

後藤 未沙

〔メッセージ〕

私たちは、「大原にふりそそぐ光」という題名の写真を撮りました。なぜこの題名にしたかということ、3枚の写真すべての植物に光が差し込んでいたからです。

1枚目の写真は、「ヒメオドリコソウ」という花の写真です。この写真は、大原の畑で撮りました。たくさんのヒメオドリコソウが光を浴びている姿を見て、まるで森のようだなと思いました。

2枚目の写真は、菜の花を下から撮った写真です。菜の花の葉の上にちょうど日が差し込んでいて、まるで朝日が昇るように見えました。私たちは、自然はいろいろな見かたがあるんだなと思いました。

3枚目の写真は、大原の森の中にあつたとてもおもしろい形をした木を撮った写真です。木の葉の間から光が差し込んでいるのがとてもキレイだったので、3枚目はこの写真に決めました。

私たちはデジカメ選手権をやるのはこれで4回目です。なので、私たちは3年生のころから自分たちで撮った大原の自然の写真を応募しています。毎年撮るたびに、大原の自然をカメラに写し、自分自身で自然を実感できるので、私たちはこの行事を毎年楽しみにしています。

今年は光をテーマに大原の自然をカメラで撮りました。自分たちの目で見て実感し、大原の自然を伝えていきたいと思っています。

・撮影場所 京都府京都市左京区大原

〔講評〕

毎回、小学生の部の作品は、伸びやかな感じがして良い作品が多いです。この作品も、既成概念にとらわれず、好きなものを自由に捉えている感じがするのはいいと思います。真ん中の写真、菜の花でしょうか、下の方からのアングルで太陽の光と一緒に取っていたり、ヒメオドリコソウの群落を、ただ撮っているだけなんですけど、何気ない田んぼの路端にある風景に目を向けていたり、ヤマフジのつるを下から見上げた、凝ったアングルの写真など、全体的に楽しい作品にまとめられていると思います。

〈今森 光彦氏〉



『森の生き物』

ファミリー

（広島県神石郡神石高原町）

①



②



③



Canon EOS40D

『未来のナチュラリスト』

三代自然大好き

（大阪府寝屋川市）

①



②



③



RICOH CX4

『初秋の棚田』

小野ファミリー

（京都府京都市）

①



②



③



FUJIFILM Finepix S4000

『癒しが多いさと山の環境』

森の道

（大阪府大阪市）

①



②



③



RICOH CX5

『里山の小さな生命』

写友

（岡山県真庭市）

①



②



③



①CanonEOS 60D ②③CanonEOS 5D MARK II

『森林（もり）に感謝』

ワニワニクラブ

（大阪府八尾市）

①



②



③



①FUJIFILM Finepix v10
②③FUJIFILM Finepix z900exr

『お散歩、里山』

仲良し姉妹

（大阪府大阪市）

①



②



③



Nikon COOLPIX S6000



最終審査対象作品（受賞作品は除く） 【森林・林業活動部門】



『2012 年しおんじ山』 しおんじ山の会 (大阪府箕面市)

①



②



③



OLYMPUS SP-590UZ

『棚、里山、稲』 きんきちゅうごく森作りの会 (大阪府吹田市)

①



②



③



Nikon D40X

『五感で楽しむ里山の森林（もり）』 特定非営利活動法人 木曾川・水の始発駅 (長野県木曽郡木祖村)

①



②



③



Nikon COOLPIX S8000

『はじまるよ、 雲ヶ畑グリーンツーリズム（植林編）』 理想の森プロジェクトA (京都府京都市)

①



②



③



Canon EOS KISS X4

『SATOYAMA』 理想の森プロジェクトB (大阪府枚方市)

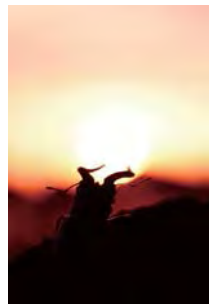
①



②



③



Canon EOS KISS X4

『森を歩き、森を聴く』 木材コーディネーター (大阪府吹田市)

①



②



③



Nikon COOLPIX P6000

『家族で力を合わせて』 ヒマラヤン・グリーン・クラブ (滋賀県大津市)

①



②



③



Nikon COOLPIX P500



『里山の再生力』

岡山県立高梁城南高等学校チーム B
(岡山県高梁市)

①



②



③



Canon EOS60D

『里山とのつながり』

岡山県立高梁城南高等学校チーム C
(岡山県高梁市)

①



②



③



①②Canon EOS60D ③PENTAX K-r

『田んぼのある風景』

滋賀県立八幡商業高等学校
(滋賀県近江八幡市)

①



②



③



SONY α100

『小さな景色』

京都府立北桑田高等学校 B 班
(京都府京都市)

①



②



③



PENTAX Optio RZ18

『ハス葉の物語』

広島県立庄原格致高等学校 A チーム
(広島県庄原市)

①



②



③



①Nikon D90 ②③Nikon D80

『雨に濡れて』

広島県立庄原格致高等学校 D チーム
(広島県庄原市)

①



②



③



①③Nikon D90 ②PENTAX K-7

「平成24年度グループ対抗里山デジカメ選手権」受賞作品の展示

●場所：近畿中国森林管理局 森林のギャラリー

●期間：平成24年11月19日～12月14日



●場所：近畿農政局 消費者の部屋

●期間：平成25年1月21日～2月15日



平成 24 年度「グループ対抗里山デジカメ選手権」地域別応募者状況

東京都	特許調査部	大阪府	(株) 森林テクニクス
	認定 NPO 法人 JUON (樹恩) NETWORK		仲良し姉妹
長野県	NPO 法人木曾川・水の始発駅		箕面大好き親子
	NPO 法人やまぼうし自然学校		森の道
愛知県	トヨタの森	奈良県	ワニワニクラブ
岐阜県	われら山の子		そらぐみ
滋賀県	NPO 法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ		ファミリーあすなろ
	滋賀県立八幡商業高等学校	兵庫県	溪のサクラを守る会
	滋賀森林インストラクター会		里山姉妹
京都府	小野ファミリー		兵庫県立兵庫工業高校
	オムロンの森(大正池)に学ぶ仲間たち		宮っ子親子
	京都大原学院		木材コーディネーター
	京都府立北桑田高等学校	岡山県	遊友クラブ
	吉田ファミリー		岡山県立高梁城南高等学校
大阪府	理想の森プロジェクト		写友
	きんきちゅうごく森作りの会	広島県	千年の森づくりグループ
	三代自然大好き		広島県立庄原格致高等学校
	しおんじ山の会	高知県	ファミリー
	写ベスト		大きな秋

※ 最優秀賞 里山賞 優秀賞 審査員特別賞 最終審査対象作品

(五十音順)

凡例

- 平成 19 年～ 24 年度応募
- 平成 20 年～ 24 年度応募
- その他

記載例: 愛知 24-2, 23-1, 22-3, 21-2, 20-1

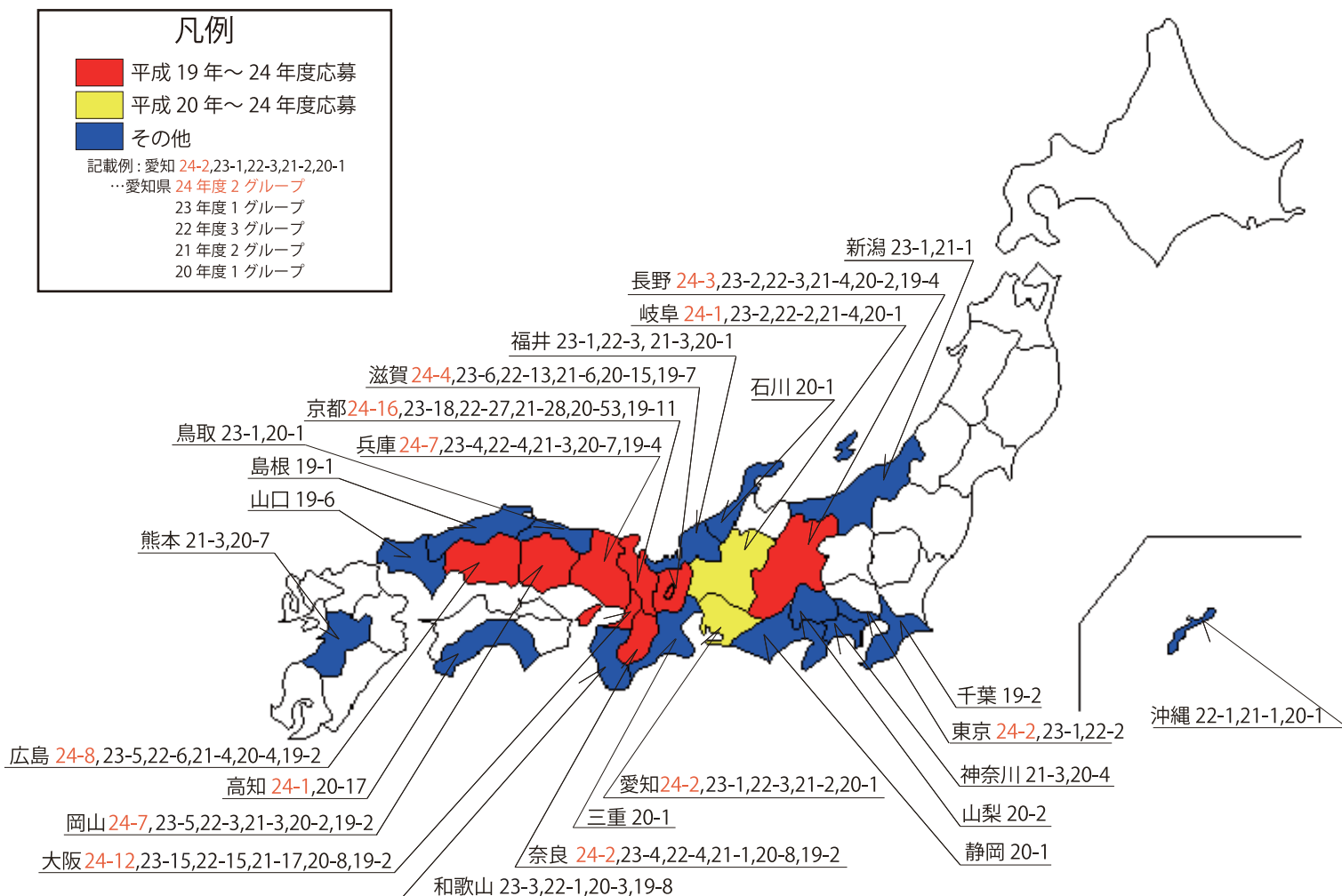
…愛知県 24 年度 2 グループ

23 年度 1 グループ

22 年度 3 グループ

21 年度 2 グループ

20 年度 1 グループ





平成24年度「グループ対抗里山デジカメ選手権」

編集・発行：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8番75号 近畿中国森林管理局内

TEL：06-6881-2013

FAX：06-6881-2055

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/